

新年にあたって ～最近の防災対策について～

国土交通省東北地方整備局 防災対策官 木村 信悦

新年明けましておめでとうございます。防災エキスパートの皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年はいった大きな災害は発生しませんでした。温暖化の影響と思われる集中豪雨への対応が多かった年でした。

12月22日～23日にかけては季節外れの大雨により、警戒体制を設置した事務所もあり、特に一般国道45号では法面崩落や施設が破損するなどの被害が出ました。

また、12月25日から26日にかけては福島県会津地方を襲った大雪により、一般国道49号ではスタック車両が発生、多くの車両が通行不能となり、2区間延べ34kmに亘って通行止めを余儀なくされました。郡山国道事務所では「非常体制」を設置、福島県内事務所及び北陸地整から除雪の応援を受けるとともに、食料やガソリンを配付するなどの現地対応を実施しました。このような状況を踏まえ、整備局では一般国道49号の早期開放を図るべく、福島県知事へ自衛隊の災害派遣要請を依頼しました。さらに新年早々には、中国地整の鳥取県内一般国道9号でも大雪により通行止めとなり、一時千台の車両が立ち往生し自衛隊が派遣されました。

防災エキスパートの皆様には、異常気象による災害の発生リスクの高まりと規模が大型化している現状を踏まえて、平常時における防災支援活動をお願いするとともに、宮城県沖地震等大規模な災害の発生時には御支援、御協力をいただくこととなりますので、引き続き宜しく願いいたします。

～情報提供～ リエゾン協定の取組み状況について (東北地方整備局)

リエゾン（災害対策現地情報連絡員）は、被災地方自治体との災害支援窓口として、自治体の災害対策本部等に国土交通省職員を派遣することで、被災情報の収集や提供を行い、的確な災害対策の支援（災害対策用機械及びTEC-FORCE派遣等）を実施することを目的として平成19年度に創設されました。岩手・宮城内陸地震では岩手県庁、宮城県庁、一関市、奥州市、栗原市に派遣、各地の被害規模等を速やかに把握し、TEC-FORCE派遣の判断材料となるなど有効に機能しました。これを受けて東北管内の全自治体と協定を締結すべく各事務所の職員が説明に伺うなど積極的な活動を展開し、平成22年12月末時点の締結率は50%を超えました。また、同年12月15日には福島県内の市町村で初めて締結することになった須賀川市との調印式が執り行われました。調印式には須賀川市からは市長、副市長、整備局からは郡山国道事務所長、防災対策官等が出席しました。これを機に福島県内の締結に弾みがつくことを期待するものです。



▲ 福島県須賀川市との調印式の様子(12月15日)
【左から金澤副市長、橋本市長、木村防災対策官、鎌田事務所長】

“防災エキスパート研修会”開催状況報告

防災エキスパート研修会は、災害特性や地域特性を考慮し、一層行政側との連携強化を図るため、地域毎の開催を基本として進めて参りました。12月までに開催された、青森、岩手、山形、福島県ブロック内の開催状況については、以下のとおりです。

(県ブロック順)

青森県ブロック

<開催ブロック> 青森県管内全体

開催日：平成22年 10月20日(水)

会場：アラスカ会館（青森市内）

参加者：整備局側 23名〔防災対策官、青森河川国道事務所長ほか〕
防災エキスパート 19名

研修内容

- 「最近の防災業務について」講話 — 木村防災対策官 —
- 管内各事務所からの情報提供
- 意見交換



▲ 研修会の様子



▲ 研修会の様子



▲ 意見交換の様子

～開催後の意見・感想等～

- ・ 支援体制の見直しにより限られた人数としたことで、これまで以上に事務所側との連携が強化された。

岩手県ブロック

<開催ブロック> 岩手河川国道事務所水沢出張所管内

開催日：平成22年 10月26日(火)

会場：水沢出張所内会議室

参加者：整備局側 2名〔水沢出張所長、技術係長〕
防災エキスパート 11名

研修内容

- 現地研修（北上地区・水沢地区）
- 防災エキスパート運営方針の説明
- 意見交換



▲ 研修会の様子



▲ 北上地区現地研修の様子



▲ 水沢地区現地研修の様子

～開催後の意見・感想等～

- ・ エキスパートから経験談や今後注意すべき事項等の話があり、非常に参考になったと出張所からも感謝の言葉をいただいた。

山形県ブロック

<開催ブロック> 山形河川国道事務所管内各国道維持出張所毎

開催日：平成22年 11月16日～24日の間

会場：各出張所等会議室

参加者：整備局側 5出張所延べ 25名〔山形河川国道事務所副所長ほか〕
防災エキスパート 5出張所延べ 24名

研修内容〔各出張所共通〕

- 現地視察（各出張所管内）
- 意見交換

《尾花沢国道維持出張所》

開催日：11月16日(火)

参加者：局 5名／エキスパート 5名

《寒河江国道維持出張所》

開催日：11月17日(水)

参加者：局 5名／エキスパート 4名

《新庄国道維持出張所》

開催日：11月18日(木)

参加者：局 4名／エキスパート 5名

《米沢国道維持出張所》

開催日：11月19日(金)

参加者：局 5名／エキスパート 4名

《山形国道維持出張所》

開催日：11月24日(水)

参加者：局 5名／エキスパート 6名

～開催後の意見・感想等～

- ・ 災害時にあたっては、日頃から行政側とコミュニケーションを図り、防災対策情報を共有していくことが非常に重要であると実感した。



▲ 意見交換の様子（尾花沢）

▲ 現地視察（寒河江）
〔国道112号西川町本道寺地内〕

▲ 意見交換の様子（米沢）

▲ 現地視察（新庄）
〔国道13号真室川町及位地内〕▲ 現地視察（山形）
〔国道48号東根市関山地内〕

福島県ブロック

<開催ブロック> 福島河川国道事務所管内

開催日：平成22年 10月 5日(火)

会場：福島河川国道事務所内会議室

参加者：整備局側 20名〔福島河川国道事務所長ほか〕
防災エキスパート 21名

研修内容

- 事業概要・災害発生状況の説明
- 防災エキスパート概要説明
- 現地視察（大玉地区）
- 意見交換（河川・道路分科会）



▲ 意見交換の様子（左：河川分科会 右：道路分科会）



▲ 研修会の様子

▲ 現地視察の様子
〔大玉地区法面崩壊現場〕

～開催後の意見等～

- ・ 例年と異なり事務所単独開催としたことで、現地におけるエキスパートの指導・経験談等、充実した研修となり、事務所からも高い評価をいただいた。

平成22年の主な災害

◇ 梅雨前線による大雨（6月中旬～7月中旬）

6月中旬から7月中旬にかけて、九州から本州付近に停滞した梅雨前線が活発化し、九州から東北地方の広い範囲で大雨となり、局地的に1時間に80ミリを超える猛烈な雨が観測されました。九州の各地では降雨の観測史上1位を更新し、特に九州南部では総雨量が1,500ミリから2,000ミリに達し、平年の2倍を超える雨量を記録しました。

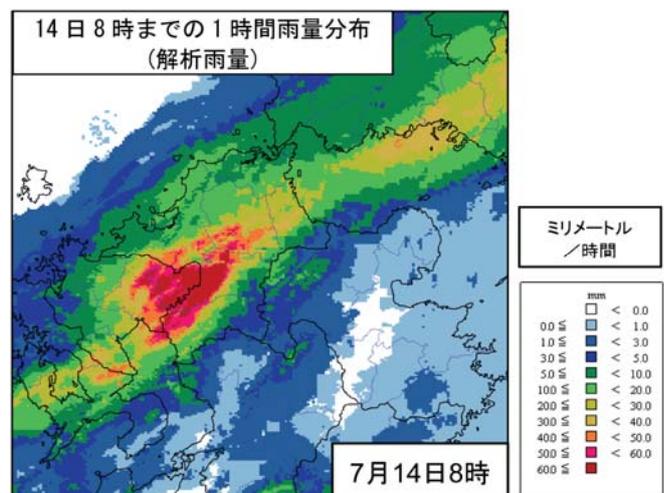
この大雨により、福島県、東京都、長野県、岐阜県、島根県、岡山県、広島県、宮崎県、鹿児島県で死者・行方不明者が21名となり、42道府県の200市町村で576件の土砂災害が確認されております。（国土交通省調べより）

全国の直轄河川では、“はん濫危険水位”を超えた河川が延べ10河川、“避難判断水位”を超えた河川は延べ11河川にも及びました。（6/11～7/19の期間）

これにより、「平成22年6月11日から7月19日までの間の豪雨による災害」として激甚災害に指定され、農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置等が適用されました。

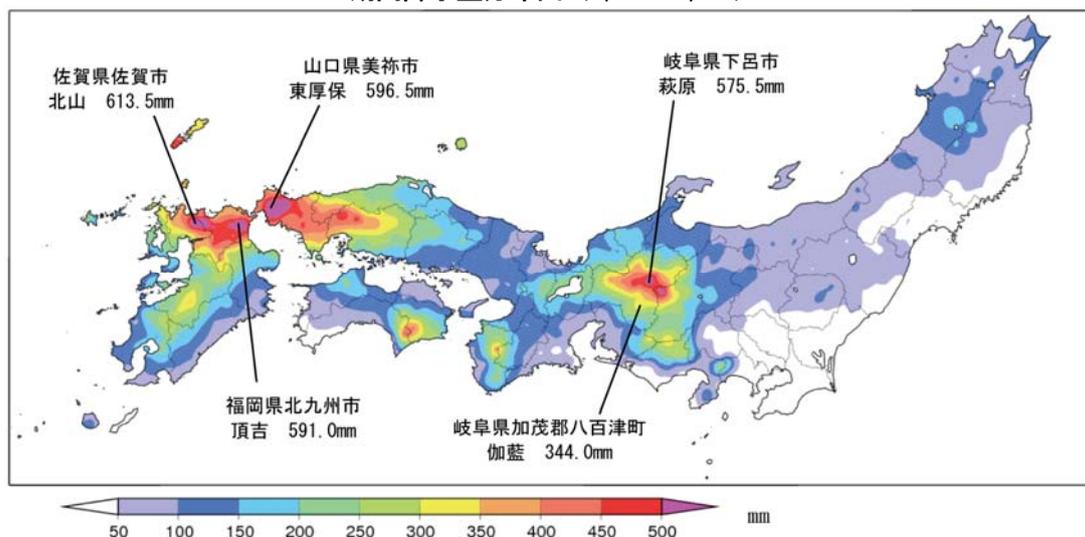
また、東北地方で災害はなく、防災エキスパートの出動もありませんでしたが、7月17日より全国から延べ69名の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）が広島県に派遣され、災害緊急調査、被災状況調査等の対応にあたりました。

（国土交通省調べより）



※いずれも気象庁HPより引用

期間降水量分布図（7/10～7/16）



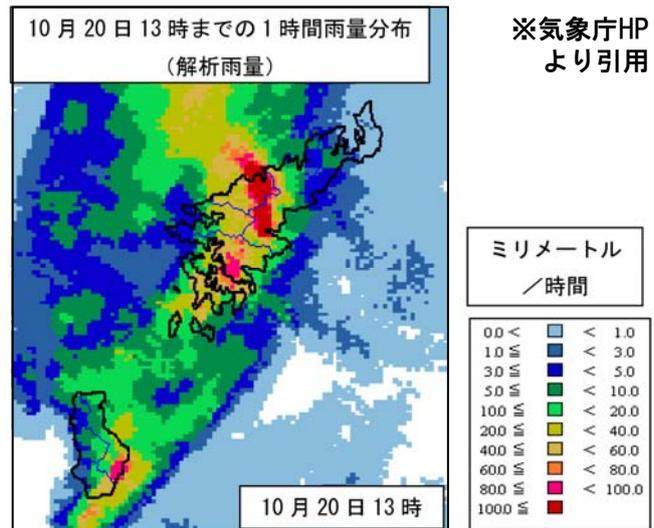
◇ 鹿児島県奄美地方における大雨（10月中旬～下旬）

10月18日から21日にかけて、前線が奄美地方に停滞し、南から湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、奄美地方では18日の降り始めからの期間降水量が800ミリを超える記録的な大雨となりました。

この大雨により、奄美市のグループホーム入所者と龍郷町で倒壊した家屋の下敷きとなり計3名の死者がでており、家屋の全・半壊が489棟、床上・下浸水に至っては886棟に及びました。また、鹿児島県内5市町村（奄美市、龍郷町、大和村、瀬戸内町、徳之島町）で56件土砂災害が確認され、NTT回線や携帯電話が一時不通となるなど多大な被害をもたらしました。

これにより、「平成22年10月18日から同月25日までの間の豪雨による鹿児島県奄美市等の区域に係る災害」として激甚災害に指定され、公共土木施設災害復旧事業等に関する特別の財政援助及び農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置が適用されました。

また、国土交通省は、鹿児島県等に全国からリエゾン（情報連絡担当官）を延べ96名（10/21～11/2の期間）派遣し、奄美大島にはTEC-FORCEを延べ299名（10/21～11/6）派遣し対応にあたりました。（国土交通省調べより）



～・～・～ 防災エキスパート活動報告 ～・～・～

「水防技術講習会」事前打合せを実施（山形）

平成22年10月31日(日)、最上川（山形県南陽市・川西町）において開催予定であった「水防技術講習会」の講師派遣依頼を受け、平成22年10月19日(火)、東北建設協会山形支所会議室において講師事前打合せが実施されました。

講師として防災エキスパート8名と主催者の山形河川国道事務所職員2名の参加により、講習会内容の確認等を行いました。

「水防技術講習会」は、水防団員等の水防技術の向上を図り、水防の技術的なリーダーを育成することを目的とし、毎年次年度の水防演習開催地で行われているものです。今年度の水防技術講習会当日は、台風14号の接近のため中止となりましたが、来年開催予定の水防演習の心構えとして有意義なものとなりました。



▲ 事前打合せの様子

編集
後記

新年、あけましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、まさに“異常”の年でした。全国各地で記録した猛暑、そして集中豪雨による水害の数々。私たちは今後も、この異常気象に加え、宮城県沖地震等の大規模地震というリスクとも向かい合っていかなければなりません。

被害を最小限に抑えるため、行政や民間企業が、地域が、そして防災エキスパートが今何をすべきか、何が出来るかをみんなで考え一つ一つ確実に実行していく必要があります。

防災エキスパートの皆様方には、これまで以上の御協力をお願いいたします。なお、防災エキスパートだよりに対する御意見・御感想もお待ちしております。

防災エキスパート事務局（地域事業部）記

TEL 022-268-4711 / FAX 022-211-9534
mail : bousai@kyokai.or.jp